

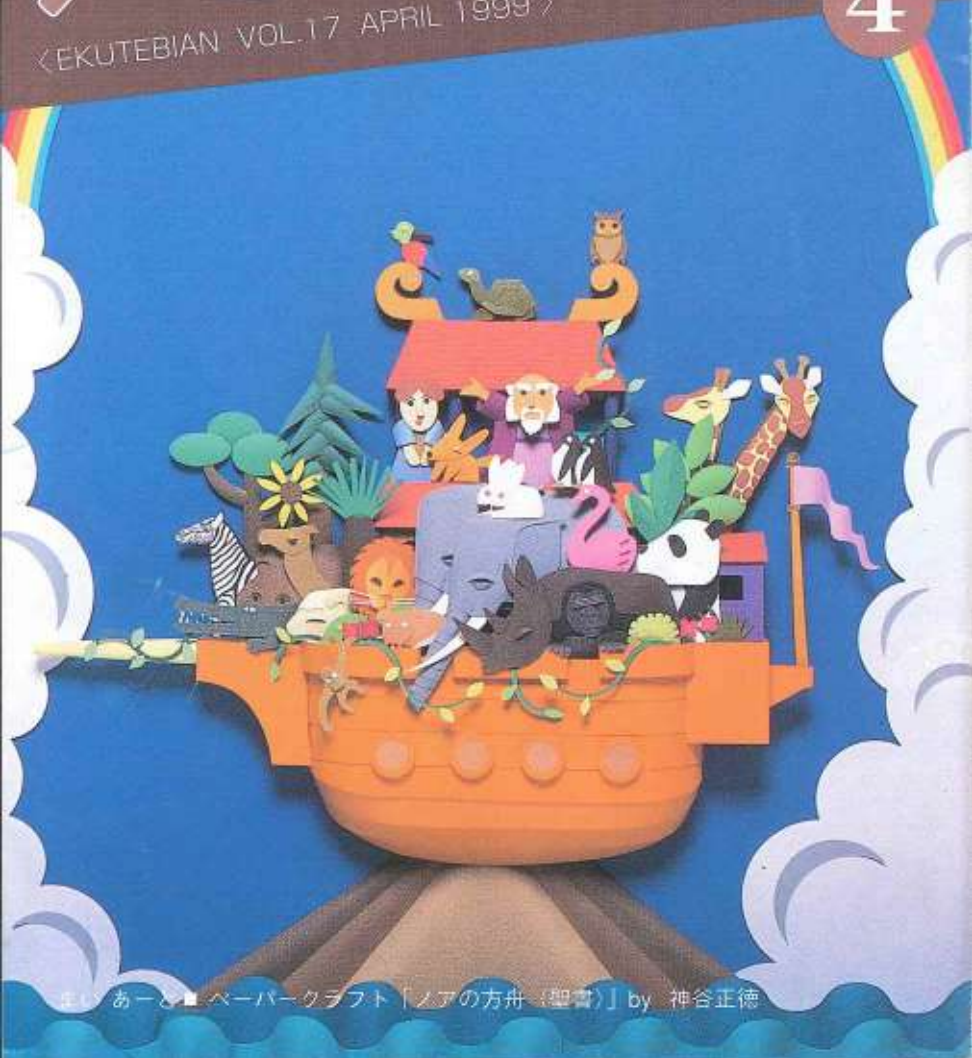
月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくてびあん

〈EKUTEBIAN VOL.17 APRIL 1999〉

4



アート・ペーパークラフト「ノアの方舟（聖書）」by 神谷正徳

木製レター・ラック

炎でよみがえる木目の温もり

今月は市販の木材を使って木工工作に挑戦。のこぎりや金槌に慣れていない人にとってははてこずる過程が多いが、鈴木さん曰く「あまり神経質にならないで大雑把で結構。木の自然な持ち味が失敗をカバーしてくれます」。その持ち味を引き出すのは組立て完了後に行う“炎の儀式”。アウトドア用のバーナーで表面をあぶり、木目を浮かび上がらせるのだ。木の質感と温もりが生き生きと蘇り、ちょっとした高級感すら生まれてくる。素朴な味わいの状差し、完成まで所要時間2時間。



今月の先生

鈴木勝哉さん（幸町）



1

市販の木材を各部に切り分ける。正確に行うに越したことはないが、多少の切り損じも「味」のうち。



2

組立て作業。接着剤で固定してから釘を打つとやりやすい。木目の流れを上手に読むことがコツ。



3

いよいよ炎の儀式。全体にムラなく行うこと。近づけ過ぎると、単なる「焦げ目」になってしまう。



4

固めのブラシで表面を磨く。切り口の断面は紙ヤスリなどで整えておくことさらにきれいに仕上がる。



5

釘の箇所が目立たせよう「飾り釘」をかぶせる。打ち損じも隠せるし、アクセサリーにもなるので便利。



6

本体完成。前面に寒時計をつけたり、用るす紐に凝ったりすれば、手作り感はさらに増す。



えくてびあんレポート

一人レストラン

曙町2丁目「ラ・フランス」の萩原 賢さん

仕入れ、セッティング、接客、調理、後片付け…。
ただでさえ忙しいレストランの仕事を終日、
たった一人でこなしている人がいる。
仏風家庭料理「ラ・フランス」の店主、萩原賢さん。
萩原さんはこのスタイルを、もう十年も続けている。
込み合うランチの頃には、一時もじっとしてられない。
せめて皿洗いぐらい誰かに、などと云いたくなるが、
どんなに忙しくても萩原さんは
一人であることをやめないだろう。
味、サービス、すべてにおいて
ここは萩原さんの「世界」なのだ。





画・西さだ子

空そらに咲さく花はな

空に大きく咲く花は、
白木蓮はくもくれんのやうな花。

枝えだをはなれて一つづつ

しづかに流ながれていくお花。

はれた四月しがつの岡おかの上

今日きょうも子どもはながめてた。

「あの青空あおぞらの向むかうには、

白しろい大きな花の木が、

いつもにほってゐるだろな。」